

〈報告〉

## 平成19年度学生による授業評価に関する報告

専修大学経営学部  
自己点検・評価実施委員会

### まえがき

平成19年度の「学生による授業評価」について、その実施状況および実施した教員と回答した学生に関する全体的概要を報告する。ご協力いただいた学部内外の教員各位に感謝申し上げます。また、準備から分析結果の配布にいたる作業をご担当いただいた教務課職員各位にも、お礼を申し上げます。

平成19年度から経営学部経営学科の専門科目のカリキュラムが変更され、今後は新たなカリキュラムを評価していくことになる。そのため有益な情報を得るための一つの手段が、学生による授業評価であろう。そこで、授業評価をどのように実施し、その結果を分析したらよいか、考えておかなければならない。平成19年度は冊子版の報告書を作成する年度ではないが、新しいカリキュラムを考慮して、冊子版の作成を見据えた概要をまとめることにした。

平成19年度は主に前期に学生による授業評価を実施し、その結果を教員が後期の講義で生かすことができるように計画した。そのようにした理由は、次に述べる通りである。

すでに外国語科目などの展開が前期・後期に分けられているが、変更されたカリキュラムでも、すべての専門科目の展開が前期・後期に分けられた。それにともない、授業評価も前期・後期それぞれで実施することが望ましい。当然のことながら、変更前のカリキュラムの授業評価も実施したい。しかしながら、予算の制約や実施にあたる教職員の負担を考えると、これまでと同じ対象科目に対する授業評価を年2回行うことは、困難であると判断した。

実施の詳細については、本報告の「授業評価の実施」をご覧ください。

平成20年7月

平成19年度経営学部自己点検・評価実施委員会  
宇佐美嘉弘（委員長），青木章通（副委員長），植松日子太郎，  
倉持俊弥，山田耕嗣，齋藤実，佐藤康一郎

## 1. 授業評価の目的

学生による授業評価の目的は，受講した学生の評価・意見に基づいて，授業の改善点を模索することにある。学生の要求・学力と授業内容を照応させること，もしくは授業方法により一層の工夫を凝らすことなどの作業は，避けて通ることのできない問題である。

ところで，学生の評価に無原則に従従することがあってはならないことも，もとより自明である。しかし，学生による授業評価が，授業改善に役立つデータであることもまた否定できない事実であり，我われ教員の主体的な取り組みが問われている。

ただし，平成7年度に，初めて授業評価を実施した際の教授会申し合わせ事項，「教員の勤務評定には絶対に利用しない」ことにも留意する必要がある。

## 2. 授業評価調査票の内容

平成19年度の授業評価調査票では，平成18年度と同じ質問項目で，マーク形式の調査票と自由記述形式の調査票を用いた。マーク形式の調査票については，すべて5段階評価による25の質問項目を次の4つの群に分けている。

- A. 授業の環境・方法について（記入欄1～13）
- B. 授業の内容について（記入欄14～18）
- C. あなたについて（記入欄19～24）
- D. 総合評価について（A～Cを踏まえて）（記入欄25）

また，自由記述形式の調査票での質問は次の通りである。

この授業について、良かったと思う点や改善を求めたいと思う点を、施設・設備面についての評価も含め、具体的に書いてください。

回収した自由記述の回答内容は、当該科目の担当者のみが参照し、その概要報告を自由記述教員アンケートとして当委員会委員長が受ける。アンケートの内容は次の通りである。

- 一. 自由記述評価で先生の授業について「良かった」と評価されている点はどんな点だったでしょうか。
- 二. 自由記述評価で先生の授業について「改善した方がいい」と評価された点はどんな点だったでしょうか。
- 三. 以上の結果をどのように受け止め、どのように授業を進めたらよいと思われますか。
- 四. 自由記述評価のなかで、施設・設備面に関する学生の要望があがっている点はどんな点でしょうか。

自由記述形式の調査票および自由記述教員アンケートは、平成17年度の委員会が定めたものである。

### 3. 授業評価の実施

経営学部の学生による授業評価は、これまで主に学年末（後期末）に実施してきた。平成19年度の入学者から、経営学部のカリキュラムが変更されたこととともない、専門科目の講義は前期・後期それぞれで終了することになった。新しいカリキュラムを評価するために、継続的に授業評価を分析しなければならないが、新旧のカリキュラムが併存している状況で、前期・後期それぞれ授業評価を実施するとなると、委員会および教務課では大変な負担がかかる。さらに、これまでも評価してくれた学生に結果をフィードバックするために、前期末に授業評価を実施するべきではないかという意見があった。

そこで、平成19年度は授業評価を以下のように実施した。

1. 前期は、委員会として実施するべきであると判断した指定科目について、担当者に実施を依頼した。ただし、担当者が実施を希望しない場合には、科目名を委員会に申し出る。

指定科目：経営学部配当されている英語科目、平成19年度カリキュラム専門科目の1年次配当科目（入門ゼミナールは除く）

2. 後期は、基礎演習とスポーツ・ウェルネス・プログラムに区分される科目のみを指定科目とした。これら科目区分の授業は一部を除いて後期にのみ展開している。
3. 指定科目以外の科目については、担当者が授業評価を希望する場合には、科目名と希望実施時期（前期のみ、後期のみ、前後期）を委員会に申し出る。

実施可能な科目：経営学部専任教員が担当しており経営学部配当されている科目および兼任教員が担当している経営学部専門科目

実施しない科目：他学部のみ配当科目、企業研修、ゼミナール、卒業論文、教養ゼミナール、教養演習、総合科目

4. 授業評価の実施を指定科目で希望しない科目（上記の1と2）および指定科目以外で希望する科目（上記の3）を委員会に申し出てもらうため、アンケートを事前に行った（平成19年5月）。
5. 授業評価を実施した時期は次の通り。  
前期は平成19年7月上旬、後期は平成19年12月上旬
6. 教員への個別の集計結果を返却した時期は次の通り。  
前期分の返却は平成19年度後期開始直後、後期分の返却は平成20年5月上旬
7. 前期分については、個別の集計結果を返却するとともに、系列別や学年別などの集計結果を教授会で回覧資料として示した。

#### 4. 授業評価実施教員および回答者の概要

カリキュラムが変更された平成19年度の実施状況のまとめ方は、将来の分析の方針をたてるのに影響する可能性がある。新しいカリキュラムが進行する平成20

年度以降のことも考慮して、実施状況を示す表をどのようなものにするかについては、十分に考えたつもりである。そこで、平成19年度には授業が展開されていない科目区分も含めて、実施状況をまとめた表を示すことにした。

実施状況のまとめ方の方針と注意事項は以下の通り。

1. 指定した科目区分に該当する教員数、授業数、学生数などをまとめるのはこれまでと同様だが、平成19年度は、前期（表1）、後期（表2）、前後期合計（表3）の3つの表を作成した。さらに、従来通り、回答した学生数については、学部大学院別（表4）、学部学科別（表5）、学年別（表6）、性別（表7）の内訳も示した。これらの表では、いずれも平成19年度の概要のみを示し、これまでは掲載していた過去の推移は外した。これは、実施する授業を指定した方針がこれまでと異なるため、推移を示して過去と比較する必要性は無いと考えたからである。平成7年度から平成18年度までの推移については、「平成18年度学生による授業評価報告書」（冊子版）に掲載されている。
2. 平成19年度カリキュラムから専門科目は系列ごとに区分するのではなく、入門科目、基礎演習科目、テーマなどの科目区分で表示することにした。
3. 委員会として指定した科目区分については、指定した数に対する実施した割合が分かるようにした。ただし、履修登録が0人である授業は勘定に含めない。平成18年度までのカリキュラムの専門科目のように、担当者が希望して実施した場合には、その科目と同じ区分の教員数、授業数、学生数は示さないことにした。
4. 実施していない科目区分があるが、委員会として指定しなかったからであり、教員から協力が得られなかったわけではない。むしろ、予算が限られた状況で前期・後期に実施し、新しい専門のカリキュラムの科目を評価するために、委員会として遠慮していただいたのである。また、指定した科目区分が前期に展開されていない場合もある。

表1. 科目区分ごとの授業評価実施状況 前期

科目区分		教員(専任、兼任)			大学専任教員			学部専任教員			授業			学生			
		数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	
平成19年度からのカリキュラムの専門科目	入門【指定】	経営 ※オムニバス形式	5	2	40.0%	5	2	40.0%	5	2	40.0%	8	3	37.5%	717	245	34.2%
		会計	4	3	75.0%	4	3	75.0%	4	3	75.0%	5	3	60.0%	717	188	26.2%
		経済	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%	717	150	20.9%
		マーケティング	5	4	80.0%	5	4	80.0%	5	4	80.0%	5	4	80.0%	717	412	57.5%
		情報処理、情報システム	7	4	57.1%	4	4	100.0%	4	4	100.0%	18	12	66.7%	1119	660	59.0%
		統計	2	1	50.0%	2	1	50.0%	1	1	100.0%	4	2	50.0%	355	132	37.2%
	基礎演習【指定】	簿記 情報リテラシ 経営数学 論理	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	2	1	50.0%	17	10	58.8%
	経営管理総論【なし】																
	テーマ【なし】	企業と市場・社会 ベンチャー創造と事業継承 戦略デザイン グローバル・マネジメント 企業評価とファイナンス 企業活動と会計情報 顧客満足とマーケティング ビジネス・ソリューション 人的資源と知識創造 ITプロフェッショナル															
	寄付講座、特殊講義【なし】																
	外国語講義【なし】																
	スポーツ・ウェルネス・プログラム(SWP)【なし】																
平成18年度までのカリキュラムの専門科目【希望実施】	系列別	経営		1		1		1		2		2		104			
		会計															
		経済		2		2		2		3		3		88			
		商学		4		3		3		5		5		272			
		情報管理		2		1		1		2		2		23			
		外国語講義、共通科目		1		0		0		1		1		4			
教養教育【希望実施】	英語【指定】	43	21	48.8%	7	2	28.6%	4	2	50.0%	84	35	41.7%	2992	1112	37.2%	
	英語以外の外国語【希望実施】		3		1		1		1		4		92				
	保健体育(理論科目)【なし】																
	教職、司書・司書教諭、学芸員課程【希望実施】																
	指定した科目区分のみの合計	72	38	52.8%	33	19	57.6%	29	19	65.5%	130	62	47.7%	7351	2909	39.6%	
	全体の実施合計		51			27		27		79		3492					

注1. 【指定】は、委員会が実施対象として指定した科目区分を示す。【希望実施】は、指定ではないが、教員の希望で実施を認めた科目区分を示す。【なし】は、授業が展開されていない科目区分を示す。

注2. 【指定】の科目区分の教員の「数」は指定した数を示す。授業の「数」は同じ科目で複数展開している場合には、展開数を数えた。学生の「数」は指定した授業に履修登録している学生の総数を示す。

注3. 【指定】の科目区分については、指定した数に対して実施した割合が分かるようにした。【希望実施】については実施した数のみを示した。

注4. 専門科目で平成18年度までの科目と平成19年度までの科目が合併開講されている場合には、1つの授業が平成18年度までと平成19年度からの2箇所で見られる。英語は平成18年度から、英語以外の外国語は平成17年度からカリキュラムが変更されており、変更前後の科目が合併されている場合には、2つの授業として数えられる。

注5. 平成18年度までの専門科目の「共通科目」に含まれるのは、経済英語、経営法学、商法Ⅰ、商法Ⅱ、労働法、民法、特殊講義である。

表 2. 科目区分ごとの授業評価実施状況 後期

科目区分		教員 (専任、兼任)			大学専任教員			学部専任教員			授業			学生			
		数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	
平成19年度からのカリキュラムの専門科目	入門【希望実施】	経営 ※オムニバス形式 会計 経済 マーケティング 情報処理、情報システム 統計		2		2		2		2		2		220			
	基礎演習【指定】	簿記 情報リテラシ 経営数学 論理	8 8 2 3	4 5 1 3	50.0% 62.5% 50.0% 100.0%	5 5 2 3	2 5 1 3	40.0% 100.0% 50.0% 100.0%	5 5 2 3	2 5 1 3	40.0% 100.0% 50.0% 100.0%	10 15 2 3	6 9 1 3	60.0% 60.0% 50.0% 100.0%	335 712 15 52	170 283 7 38	50.7% 39.7% 46.7% 73.1%
	経営管理総論【なし】																
	テーマ【なし】	企業と市場・社会 ベンチャー創造と事業継承 戦略デザイン グローバル・マネジメント 企業評価とファイナンス 企業活動と会計情報 顧客満足とマーケティング ビジネス・ソリューション 人的資源と知識創造 ITプロフェッショナル															
	寄付講座、特殊講義【なし】																
	外国語講読【なし】																
スポーツ・ウェルネス・プログラム (SWP)【指定】			3	2	66.7%	3	2	66.7%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	268	133	49.6%
平成18年度までのカリキュラムの専門科目【希望実施】	系列別	経営 会計 経済 商学 情報管理 外国語講読、共通科目	7 3 1 3 7 6			7 2 1 1 2 3			6 2 1 1 2 3			12 6 1 6 11 7			1321 260 28 492 286 245		
教養教育【希望実施】	英語【希望実施】			2		2		2		2		5		441			
英語以外の外国語【希望実施】			3			0		0		0		3		97			
保健体育 (理論科目)【希望実施】																	
教職、司書・司書教諭、学芸員課程【希望実施】																	
指定した科目区分のみの合計			24	15	62.5%	18	13	72.2%	16	12	75.0%	32	21	65.6%	1382	631	45.7%
全体の実施合計				49			33		31			74		4021			

注. 表1の注1から注5を参照せよ。

表3. 科目区分ごとの授業評価実施状況 前後期合計

科目区分			教員（専任、兼任）			大学専任教員			学部専任教員			授業			学生		
			数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合	数	実施	割合
平成19年度からのカリキュラムの専門科目	入門 【前期指定、後期希望実施】	経営 ※オムニバス形式		2													245
		会計		3													188
		経済		2													150
		マーケティング		4													412
		情報処理、情報システム		6													880
	基礎演習【指定】	簿記	8	4	50.0%	5	2	40.0%	5	2	40.0%	10	6	60.0%	335	170	50.7%
		情報リテラシ	8	5	62.5%	5	5	100.0%	5	5	100.0%	15	9	60.0%	712	283	39.7%
		経営数学	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%	4	2	50.0%	32	17	53.1%
		論理	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	3	3	100.0%	52	38	73.1%
		経営管理総論【なし】															
テーマ【なし】	企業と市場・社会																
	ベンチャー創造と事業継承 戦略デザイン グローバル・マネジメント 企業評価とファイナンス 企業活動と会計情報 顧客満足とマーケティング ビジネス・ソリューション 人的資源と知識創造 ITプロフェッショナル																
寄付講座、特殊講義【なし】																	
外国語講読【なし】																	
スポーツ・ウェルネス・プログラム【指定】		3	2	66.7%	3	2	66.7%	1	1	100.0%	2	2	100.0%	268	133	49.6%	
平成18年度までのカリキュラムの専門科目【希望実施】	系列別	経営		8													1425
		会計		3													260
		経済		3													116
		商学		7													764
		情報管理		9													309
		外国語講読、共通科目		7													249
		2															
教養教育【希望実施】		2														441	
英語【前期指定、後期希望実施】		24														1209	
英語以外の外国語【希望実施】		3														92	
保健体育（理論科目）【希望実施】																	
教職、司書・司書教諭、学芸員課程【希望実施】																	
指定した科目区分のみの合計		26	16	61.5%	20	14	70.0%	18	13	72.2%	34	22	64.7%	1399	641	45.8%	
全体の実施合計			100			60			58			153				7513	

注1. 表1の注1, 2, 4, 5を参照せよ。

注2. 前期と後期の両方で【指定】とした科目区分についてのみ、指定した数に対して実施した割合が分かるようにした。



表4. 学部大学院別学生数

区分	年度	19		
		前期	後期	合計
一部		3490	4012	7502
二部		0	5	5
大学院		0	0	0
科目等履修生		0	0	0
不明		2	4	6
合計		3492	4021	7513

表5. 学部学科別学生数

区分	年度	19		
		前期	後期	合計
経営学科		3427	3586	7013
経済学科		2	55	57
国際経済学科		0	18	18
法律学科		39	40	79
政治学科		1	11	12
マーケティング学科		2	145	147
会計学科		2	54	56
日本語日本文学科		1	14	15
英語英米文学科		6	17	23
人文学科		7	43	50
心理学科		0	8	8
ネットワーク情報学科		5	25	30
その他		0	5	5
不明		0	0	0
合計		3492	4021	7513

表 6. 学年別学生数

区分	19		
	前期	後期	合計
1年	2569	1077	3646
2年	777	1601	2378
3年	74	906	980
4年	38	378	416
5年	3	29	32
6年	2	1	3
7年	0	1	1
8年	0	0	0
その他	0	0	0
不明	29	28	57
合計	3492	4021	7513

表 7. 性別学生数

区分	19		
	前期	後期	合計
男	2188	2624	4812
女	819	923	1742
不明	485	474	959
合計	3492	4021	7513

## 5. 授業評価の概要

評価については、冊子版の報告書を作成する場合には詳細な分析を行うことにして、経営学論集で報告する場合には特に触れなくても構わないことになっている。平成16年度の報告では評価について触れておらず、平成17年度には若干の記述がある。

冊子版の報告書を作成する年度になって、過去のデータファイルから集計結果を探し出すのでは、委員会としては余計な手間がかかることになる。そこで、分析までは述べないが、前期（表8）と後期（表9）それぞれの全体の授業評価の概要を掲載しておく。

表8. 授業評価の概要 全体 前期

質問項目	評価 有効回答中の比率					有効回答計 3,492中	平均値	
	適切		普通		不適切			
A	1. 環境(広さ・照明・冷暖房)	40.3%	19.4%	27.4%	7.7%	5.2%	3,488	4.2
	2. 声の大きさ, マイクの使い方	39.7%	22.2%	29.9%	5.8%	2.4%	3,485	4.5
	3. 話す速さ	29.8%	21.4%	36.1%	9.9%	2.9%	3,478	4.0
	4. 板書の字の大きさ	29.6%	20.3%	38.1%	8.6%	3.4%	3,473	4.3
	5. 板書の内容・量	23.4%	18.4%	41.4%	11.8%	5.0%	3,465	3.7
	6. 授業の進行速度	22.2%	19.3%	40.9%	13.2%	4.5%	3,480	3.3
	7. 授業の内容量	22.2%	19.4%	44.3%	10.9%	3.2%	3,476	3.3
	8. 質問時間	20.7%	15.6%	50.4%	9.1%	4.2%	3,473	3.5
	9. 質問応対	22.8%	17.5%	49.5%	6.7%	3.5%	3,467	3.7
	10. 教科書・参考書の指示	21.2%	20.7%	45.4%	8.6%	4.2%	3,466	3.6
	11. 配付資料	25.1%	20.8%	44.1%	6.9%	3.1%	3,456	3.9
	12. 授業の開始・終了時刻	30.6%	23.3%	37.3%	6.1%	2.7%	3,475	3.2
	13. 騒がしい学生に対する注意	28.8%	21.2%	39.1%	6.5%	4.4%	3,462	3.8
B		満足		普通		不満足		
	14. 講義要項	20.3%	23.4%	39.8%	10.6%	5.9%	3,480	3.5
	15. 講義要項に沿っている	22.8%	24.9%	45.3%	4.6%	2.4%	3,475	3.8
	16. 授業理解度への工夫	19.9%	23.8%	40.6%	10.7%	5.0%	3,473	3.7
	17. 授業内容	18.8%	22.3%	45.5%	9.2%	4.2%	3,465	3.5
18. 授業レベル(高低)	高すぎる 8.5%	やや高い 22.8%	良い 59.9%	やや低い 6.9%	低すぎる 1.8%	3,460	3.3	
C		大いに		普通		しない		
	19. 予習・復習をする	11.0%	15.2%	41.1%	14.2%	18.5%	3,478	2.8
	20. ノートをとる	29.4%	21.1%	35.6%	7.4%	6.5%	3,480	3.3
	21. 関連文献・資料を読む	9.6%	12.2%	42.4%	17.1%	18.8%	3,465	2.5
	22. 図書館を利用する	5.8%	5.8%	30.0%	15.2%	43.2%	3,464	1.9
	23. 私語をしない努力	36.7%	19.0%	35.6%	5.6%	3.1%	3,464	4.1
24. 出席率	90~100% 64.8%	70~89% 20.0%	50~69% 13.1%	30~49% 1.5%	0~29% 0.5%	3,478	4.6	
D		良い		普通		良くない		
	25. 総合評価	26.3%	28.7%	32.4%	7.6%	4.9%	3,298	3.8

注. 評価の適切から不適切までの有効回答中の比率は, 小数第2位の値を四捨五入しているため, 足しても100%に等しくならない場合がある。

表9. 授業評価の概要 全体 後期

質問項目	評価 有効回答中の比率					有効回答計 4,021中	平均値	
	適切		普通		不適切			
A	1. 環境(広さ・照明・冷暖房)	44.6%	19.4%	24.7%	7.5%	3.8%	3,488	3.9
	2. 声の大きさ, マイクの使い方	55.0%	22.8%	18.8%	2.5%	0.9%	3,485	4.3
	3. 話す速さ	43.3%	24.4%	25.2%	5.5%	1.6%	3,478	4.0
	4. 板書の字の大きさ	41.4%	21.1%	29.3%	6.1%	2.1%	3,473	3.9
	5. 板書の内容・量	34.8%	20.3%	34.4%	7.6%	2.8%	3,465	3.8
	6. 授業の進行速度	34.8%	24.8%	31.0%	7.7%	1.7%	3,480	3.8
	7. 授業の内容量	34.2%	23.6%	33.8%	6.6%	1.8%	3,476	3.8
	8. 質問時間	30.8%	19.6%	42.7%	5.1%	1.9%	3,473	3.7
	9. 質問応対	34.2%	20.7%	40.0%	3.4%	1.7%	3,467	3.8
	10. 教科書・参考書の指示	30.7%	21.7%	39.6%	5.6%	2.5%	3,466	3.7
	11. 配付資料	37.6%	24.0%	32.4%	4.2%	1.8%	3,456	3.9
	12. 授業の開始・終了時刻	41.5%	22.6%	28.6%	5.4%	2.0%	3,475	4.0
	13. 騒がしい学生に対する注意	41.9%	22.8%	29.7%	3.8%	1.8%	3,462	4.0
B		満足		普通		不満足		
	14. 講義要項	34.0%	25.9%	32.5%	5.7%	2.0%	3,480	3.8
	15. 講義要項に沿っている	37.3%	27.3%	32.9%	1.6%	0.8%	3,475	4.0
	16. 授業理解度への工夫	38.0%	26.5%	29.3%	4.5%	1.7%	3,473	3.9
	17. 授業内容	33.8%	26.5%	34.2%	3.8%	1.7%	3,465	3.9
18. 授業レベル(高低)	高すぎる 9.8%	やや高い 27.4%	良い 59.2%	やや低い 3.1%	低すぎる 0.5%	3,460	3.4	
C		大いに		普通		しない		
	19. 予習・復習をする	9.5%	12.9%	41.4%	12.2%	23.9%	3,478	2.7
	20. ノートをとる	37.3%	21.1%	29.7%	6.3%	5.6%	3,480	3.8
	21. 関連文献・資料を読む	11.5%	14.7%	40.7%	14.5%	18.6%	3,465	2.9
	22. 図書館を利用する	7.3%	8.5%	30.3%	14.7%	39.3%	3,464	2.3
	23. 私語をしない努力	48.1%	17.2%	27.9%	4.6%	2.3%	3,464	4.0
D	24. 出席率	90~100% 53.9%	70~89% 29.6%	50~69% 14.4%	30~49% 1.6%	0~29% 0.5%	3,478	4.3
	25. 総合評価	良い		普通		良くない	3,298	4.1

注. 評価の適切から不適切までの有効回答中の比率は, 小教第2位の値を四捨五入しているため, 足しても100%に等しくならない場合がある。

## 6. 授業評価の実施および集計作業に関する課題

平成16年度から、マーク形式の調査票の読み取りおよび授業ごとの集計の作業を、外部の業者に委託している。そのため、平成19年度については、前期末に実施した授業評価の集計結果を、後期の開始時に各教員に返却することができた。しかし、年2回実施することで委託費用がかさむため、後期についてはやむなく委員会が集計作業を行うことにしたが、各教員への結果の返却が新年度の開始時に間に合わなかった。大学に対して授業評価のための予算増を要望することは必要であるが、限られた予算の範囲でどのように授業評価を実施するか、計画を考えていかなければならない。